

平成28年度 山形県立米沢工業高等学校・全日制 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

	学校教育目標	「健康で心豊かな、たくましい実践力のある工業技術者」を育成する
全日制	重点目標	1：前に踏み出す力の育成
		2：考え抜く力の育成
		3：社会を生き抜く力の育成
	学校経営	1：経営の重点

達成度	A：達成
	B：概ね達成
	C：やや不十分
	D：不十分

専攻科	重点目標	1：地域が求める高度な技術を身に付けた実践力のある工業技術者の育成
-----	------	-----------------------------------

課程	自己評価					学校関係者評価	
	重点目標	番号	評価項目及び具体的方策	目標の達成状況	達成度		次年度に向けた改善策
全日制	1	①	進路指導の充実と早期の対策（進路情報の充実と共有、就職内定率100%、山大工学部合格者3名以上）	進路内定率100%、山大工学部合格2名、公務員5名合格。	A	教職員全員が共通理解	「命の大切さ」「社会のルールについて学ぶ」の項目で、否定的回答が激減している。さらに肯定的に理解されるべく改善していくという姿勢が評価できる。 米工も卒業後に地元に残る仕組みを考える必要がある。産学共同で進めなければならない。インターンシップを長くしたり、教員が地元企業を知ることも必要である。さまざまな評価や課題研究発表会等を見て、課題設定力がすごいと感じた。教員の指導がすばらしい。米工は生徒の「育成」に力を入れている。評価を毎年続けることで、素晴らしい成果が出るものと思う。地区の敬老会等では吹奏楽や和太鼓などでお世話になっている。一生懸命な生徒の姿に感動したという声を聞いている。 生徒を温かく見守って指導していることに感謝したい。授業参観や学校行事のご案内も多くありがたいが、教職会（PTA）活動に多くの保護者が参加したくなるような仕掛けを今後に向けて考えていかなければならない。
		②	生徒指導の充実（学年団・類・保護者との連携強化）	問題行動の発生件数3学年と同数（今年度13件、H27年度13件）。保護者との連携を大事に指導こえた。	B	の下で、関係機関と連携	
		③	いじめの撲滅、中途退学者の減少（全教員による生徒全員の年2回実施、校内研修の実施）	7/22 職員研修会を実施。7月・12月にアンケートと生徒全員の面談を実施し、合計3件の事案があったが早期指導により改善できた。	A	を図りながら、生徒指導・進路指導に当たり目標達成を継続していく。	
		④	外部教育力活用の推進（講演会の実施、産学官からの外部講師の招聘）	進路ガイダンス・進路講話、置賜総合支庁主催の地元産業に係る講演会、ものづくりマイスター派遣・技能五輪訓練等、多くの指導を得た。	A		
	2	⑤	確かな学力の修得（ペル着と日々の授業の充実、基礎学力の向上と定着：学年・類・教科の連携）	ペル着の徹底と授業の充実を図った。基礎学力対策委員会が調整し、各学年・類において朝学習に取り組む基礎学力の向上に努めた。	A	授業第一を徹底し、基礎	
		⑥	ものづくり活動の推進（コンテスト等全国大会出場、資格取得・技能検定の推進、技能五輪出場）	技能五輪全国大会に2名出場、ものづくりコンテスト東北大会に2名出場（旋盤部門第2位）。多くの生徒が資格取得に挑戦した。ジュニアマイスター顕彰ゴールド8名・シルバー8名。	A	学力の定着を図り、生徒が主体的に協力しながら深く学ぶ機会を多く設定する。	
		⑦	創造力の育成（モノづくりとコトづくりによるデザイン力・創造力の育成）	M類1年「産業観論」で外部講師や山大留学生を招き探究型学習を実施。EV2号のドア開閉装置がイベントコンテストで優秀賞受賞。	A		
		⑧	読書活動の推進（朝読書の充実、図書貸出数の増加、図書館活用と言語活動の充実）	朝読書の実施。「図書館だより」「読書感想文集」の発行。図書貸出し数の多い生徒を表彰。貸出し数382冊(12月現在・H27年度791冊)	B		
	3	⑨	キャリア教育の推進（キャリア教育実践プランの推進、地域交流・ボランティア活動の推進、インターンシップの充実）	進路ガイダンス・進路講話を実施。月1回「アティ（有志）・被災地アティ（C類3年）を実施。インターンシップに2年202名参加（105社）。	A	新しいキャリア教育総合実践プログラムに基づき、3年間を見通した段階的な学びを大切に	
		⑩	部活動の振興（県大会上位入賞、全国大会出場5種目以上、工業クラブ活動の推進）	レスリング部・自転車部・水泳部・スキー部がチーム出場。陸上競技部・弓道部・レスリング部・自転車部・水泳部・登山部が東北大会出場。弓道部が県新人男子団体優勝、バドミントン男子シングルス優勝、自転車部男子ロード優勝、レスリング部男子団体2位、県駅伝7位。技能五輪全国大会2名出場。	A	の指導がすばらしい。米工は生徒の	
		⑪	生徒会活動の活性化（全員参加による生徒会活動の推進、体育祭・学校祭への積極的参加）	上杉まつり等への参加、和太鼓・吹奏楽・ミニSL・ボウリング活動等による地域活動の参加。全校生徒による校歌練習。	A	「育成」に力を入れている。	
		⑫	社会性の育成（他を認め思いやる心の育成、出席率の向上、時と場に応じた礼儀・挨拶の励行）	1年99.4%、2年98.9%、3年99.3%（2学期）、生徒会役員と生活委員による登校指導（毎日）、生徒保健委員による清掃点検（月1回）	A	で成長を図り、目標達成を継続する。	
		⑬	主権者教育の推進（社会への参画意識の醸成、18歳選挙権への対応）	6月に全学年各クラスLHRにて「18歳選挙権」について学習。7月参議院選挙に向けた法令遵守について3学年班による生徒への指導。	A		
学校経営	番号	評価項目及び具体的方策	目標の達成状況	達成度	次年度に向けた改善策		
1	⑭	自他の「いのち」の尊重といじめ防止対策の推進	「朝礼訓」を各HR教室に掲示。7/22 職員研修会を実施。7月・12月にアンケート実施と全教員が分担し生徒全員の面談を実施。	A	新しい学習指導法（アクティブラーニング・ICT等）について、校や研		
	⑮	心身の健康管理、学校の安全管理と危機管理意識の高揚	7月・2月学校保健委員会を開催。5/30、10/31 防災訓練の実施。7/5 薬物防止・ネットトラブル防止講話の実施。5/26 交通安全教室の実施。	A			
	⑯	5学級完成年度に向けた校内体制と将来ビジョン（専攻科を含む）の検討	米エビジョン委員会を5回開催。12/5 米エビジョン委員会主催の研修会を実施し「本校の目指すべき学校像」について検討した。	B			
	⑰	学校に対する確固たる信頼の確立（不評事・体罰の絶無、生徒とのコミュニケーションの推進）	「信頼される教師・学校をめざすアンケート」を職員会議の度に配布し注意喚起。「子どもと向き合う教育活動充実のためのマネジメント評価」アンケートを全教員対象に実施し改善点を明確化した。7/1「教職員の不祥事発覚に向けて」報告。	A	研修会を開催し、授業改善を図る。5学級完成年度に向けた校内組織の見直しを図ると共に、創		
	⑱	教員研修の充実と指導力の向上（ブレイクアウェイ・エバーグリーン・ICTに関する研修と授業実践、主権者教育の推進）	県内各高校、市内中学校等で開催された公開授業に多くの先生方が参加。エバーグリーン・ブレイクアウェイの授業、ICTを利用した指導法について研修を深めた。本校でもブレイクアウェイやICTを利用した授業を実践する先生方が増加。5/25 主権者教育推進研修会を実施（教員対象）	A			
	⑲	教育の情報化と校務の情報化の推進（校内無線LAN・ICT教室の整備、グループウェアの開設・運用）	ICTの授業が推進されるよう校内無線LANを整備した。5月からグループウェアを開設し運用を開始した。県からの文書や資料を掲載し周知する際にご利用し、また、ストレスチェックや学校評価アンケート（教員対象）をグループウェアを通して行った。	A			
	⑳	南東北インターハイに向けた生徒活動の推進（高校生活動の推進、インターハイ推進に係る各種製作）	上杉まつり・花笠まつり等における高校生PR活動への参加。文化祭で生徒会による自製PRキーホルダーの配布。B類意匠コースの生徒による缶詰PRラベルの作成。工業クラブによるソフトボールBSO掲示板の製作。	A	120周年に向けて、その後の10年を見通した体制の検討を図る。		
	㉑	創立120周年記念式典に向けた取組の推進（教職会：PTA、鶴城工親会：同窓会との連携と実行委員会の取組）	校内実行委員会を開催し各部門の役割を明確化。記念講演会の講師を決定した。鶴城工親会（同窓会）の協力を得て取組を推進。	A			

課程	自己評価					学校関係者評価
	重点目標	番号	評価項目及び具体的方策	目標の達成状況	達成度	
専攻科	1	①	学習指導「主体的学びの育成を図る」（受動的学習から能動的学習へ、創造的学習の実践、専門性の探究）	外部団体から依頼された業務（米沢有為会PR更新、我妻榮記念館PR更新）を計画的に実践。IoT学習に取り組み、デザイン思考を活用した「コトづくりからモノづくり」までの一連の流れを学習し、課題研究発表会で発表した。	A	地元自治体や山形大学、
		②	生徒指導「自己管理能力の育成を図る」（社会人基礎力の向上、チームスキルを通して個々のスキルの向上を図る）	外部講師からビジネスマナーや社会人基礎力、グローバル人材となるための心構えなどの講義をいただく。（延べ約20回）IoT学習において、2チームに分け、両チームとも企画段階からスタートし、協力しながら製品を製作、完成させることができた。	A	地元企業との交流を図
		③	進路指導「進路希望の実現を図る」（個性に合った進路選択、キャリア計画の立案と自己目標の実現）	進路内定率100%（1/1）。ハローワークの進路セミナーへ参加した。	A	りながら、新技術に関す
		④	地域社会との連携（実践的な地域貢献活動の推進、各種コンテスト・イベントへの積極的参加）	新商品・新事業アイデアコンテスト（キャンパスベンチャーグランプリ東北2016）へ参加し、初の「最優秀賞」を獲得、全国大会への出場権を得た。地域貢献事業として、日本遺産出羽三山のほり旗製作や学童の看板製作を行い、高評価を得た。	A	る新たな学習テーマを
		⑤	専攻科のPR活動（専攻科オープンキャンパス、学校見学会での中学生・保護者へのPR、全日制との連携）	7/29中学生向け学校見学会に専攻科として参加、中学生とその保護者に専攻科の活動をPRした。生徒の学習と研究について、全日制の先生方の協力を得た。2/3 全校「課題研究発表会」で研究成果を発表。	A	模索し、上記各機関との

